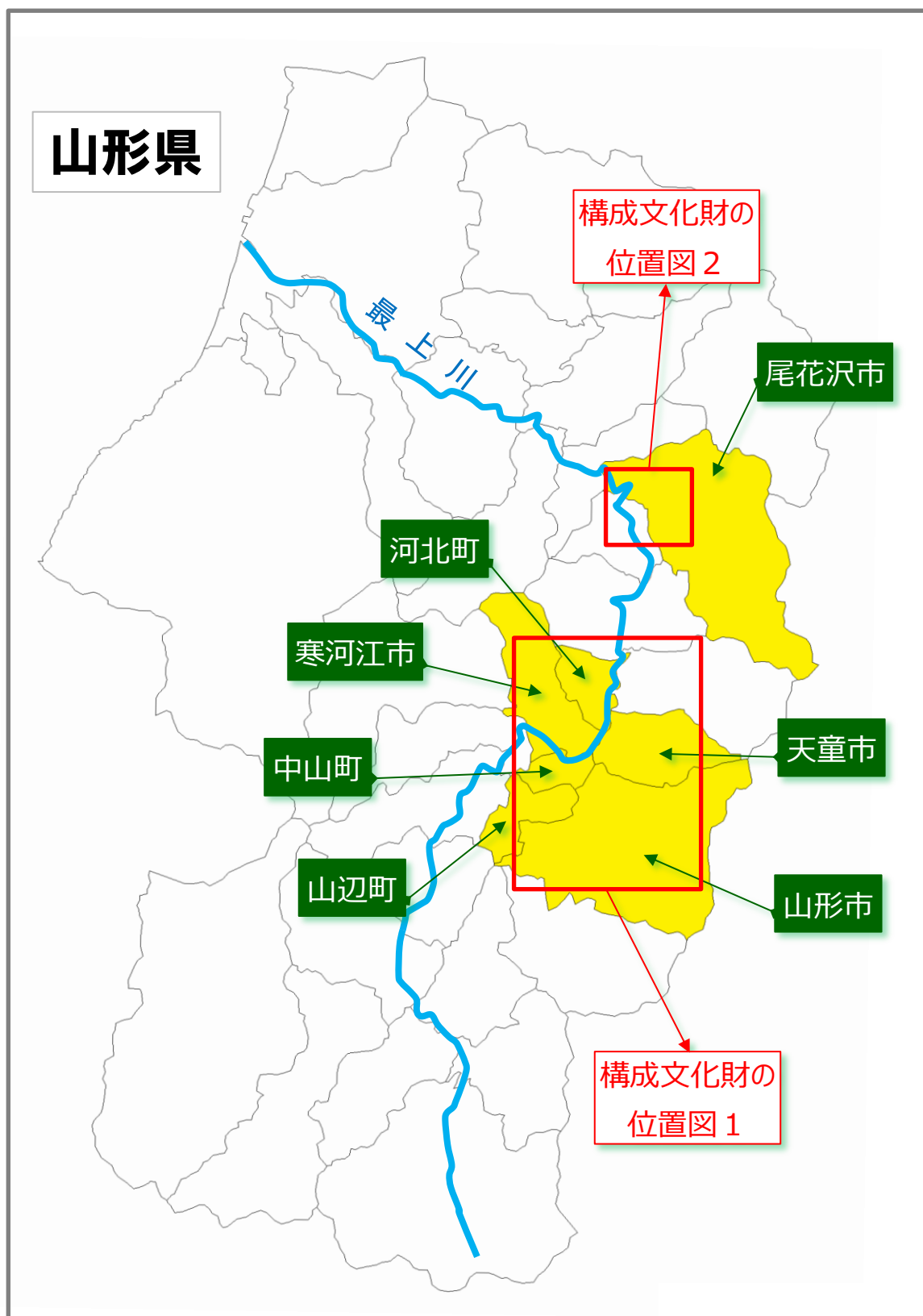
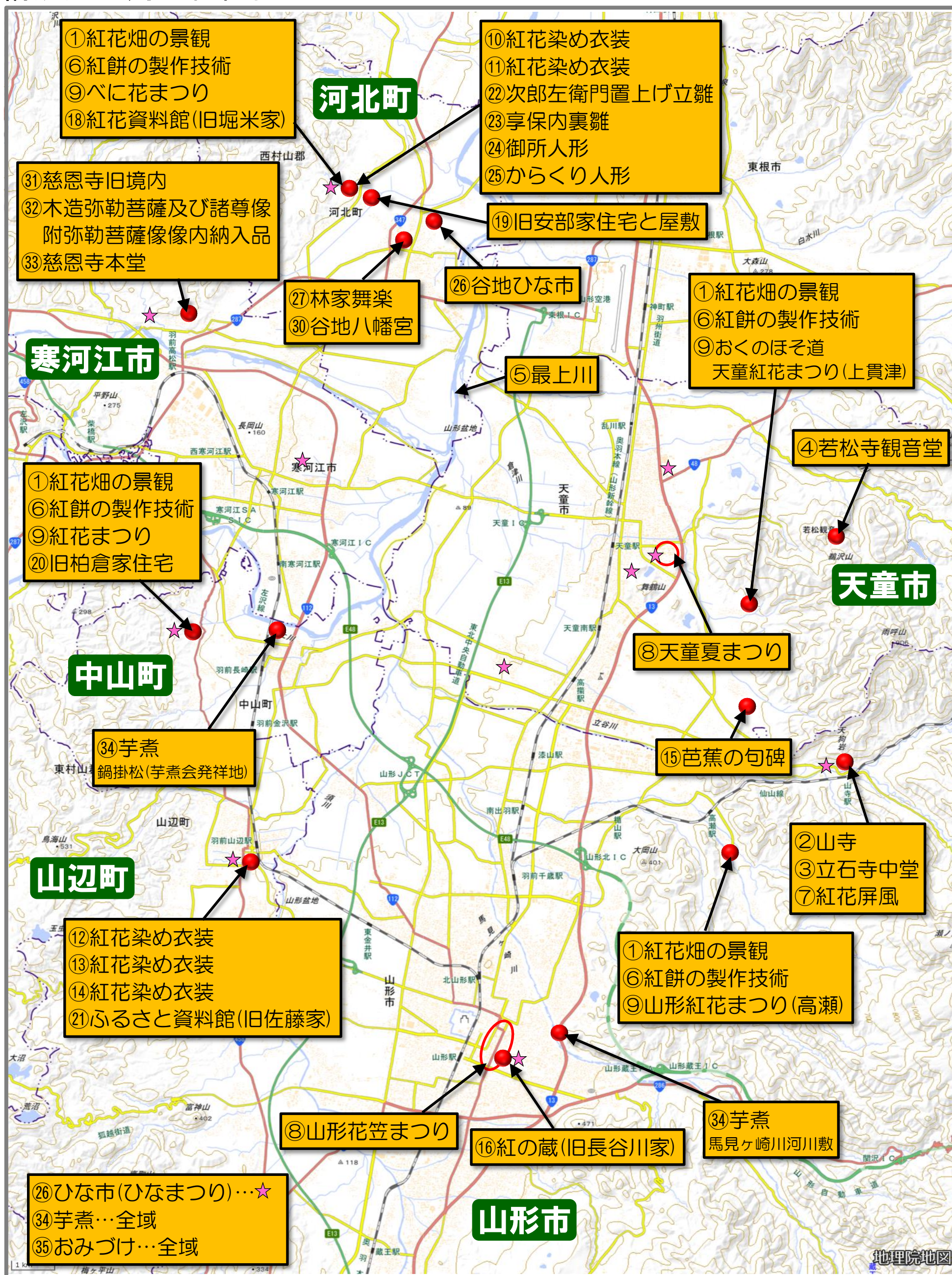


① 申請者	山形県 (山形市、寒河江市、天童市、尾花沢市、 山辺町、中山町、河北町)	② タイプ	地域型 / シリアル型 A B C D E
③ タイトル			
やまでら べにばな 山寺が支えた紅花文化			
④ ストーリーの概要 (200字程度)			
<p>鬱蒼と茂る木々に囲まれた参道石段と奇岩怪石の景勝地「山寺」。この山寺から始まった紅花栽培と紅花交易は莫大な富と豊かな文化をこの地にもたらした。石積の板黒塀と堀に囲まれた広大な敷地を持つ豪農・豪商屋敷には白壁の蔵座敷が立ち並び、上方文化とのつながりを示す雅な雛人形や、紅花染めの衣装を身に着けて舞う舞楽が今なお受け継がれ、華やかな彩りを添える。この地の隆盛を支えた山寺を訪れ、今も息づく紅花畑そして紅花豪農・豪商の蔵座敷を通して、芭蕉も目にした当地の隆盛を偲ぶことができる。</p>			
			
地域を見守る山寺からの景観		豪農屋敷 (旧柏倉家住宅) と紅餅 (染料)	
		 	
花笠まつり (花笠は紅餅を表現)		林家舞楽 (紅花染め衣装) 芋煮 (地域の食文化)	
⑤ 担当者連絡先			
担当者氏名	山形県教育庁文化財・生涯学習課 課長 大場 秀樹、文化財振興主査 安藤 紀子		
電 話	(023) 630-3340、3341	FAX	(023) 630-2874
E-mail	ybunkazai@pref.yamagata.lg.jp		
住 所	〒990-8570 山形市松波二丁目 8-1		

市町村の位置図(地図等)



構成文化財の位置図 1



構成文化財の位置図 2



※国土地理院地図データをもとに作成

ストーリー

山形県の中央部に位置する村山地域は、江戸時代には日本一の紅花の産地として知られました。紅花は上方に運ばれて華麗な西陣織や化粧用の紅に加工されて日本人の暮らしを彩りました。ここでは紅花交易を通してもたらされた豊かな富と華やかな上方文化が今も息づいています。その発展の背景には当地を代表する古刹「山寺」が深くかかわっていました。

■山寺が支えた紅花交易の発展

山寺（宝珠山立石寺）は、慈覚大師円仁が平安時代に清和天皇の勅命を受けて建立したと伝わる天台宗の寺です。長い年月を経て侵食された奇岩怪石が覆う山肌や、鬱蒼と茂る木々に囲まれた千数百段の石段など、自然景観と諸寺、そして門前町が一体となって山寺を構成しています。本堂には、比叡山延暦寺から分火された「不滅の法灯」が千年以上も絶えることなく燃え続け、この地を見守り続けています。

紅花は慈覚大師や第二世安然大師によってこの地に伝えられたと言われています。山寺の門前町、慈覚大師の随行六人衆が起こした旧干布村（天童市干布地区）は立石寺の寺領とされ、江戸時代の早くから紅花栽培が行われ、多くの紅花商人が出て活躍しました。また、立石寺を本寺とした旧高瀬村（山形市高瀬地区）でも紅花栽培が盛んに行われ、今も主要な産地です。

この地は、最上川がもたらす肥沃な土壌と朝霧の立ちやすい気候風土が良質な紅を多く含む紅花を育み、トゲのある紅花を摘み易くした栽培適地でしたので、やがて流域で広く栽培されるようになりました。江戸時代初期には全国生産量の50～60%を占め、質・量ともに日本一の紅花産地となったのです。

元禄2年（1689年）山寺参詣の道すがら紅花畑を目にした松尾芭蕉は「眉掃きを 俤 にして紅粉の花」、「行末は誰が肌ふれむ紅の花」と句を詠みました。朝霧の中、一面に広がる紅花畑と若い娘たちが忙しく紅花を摘む様子が目に浮かぶようです。村々で栽培された紅花は「花買い」と呼ばれる商人が集荷し、紅花商人の屋敷で大勢の人の手で洗い干して煎餅状に丸めた「紅餅」に加工してから最上川舟運と西回り航路（北前船）を介して上方へと運ばれました。当地に残る屏風絵はこうした様子を生き生きと今に伝えます。女性が口紅を塗る様子を表現する「紅をさす」という言葉の語源は紅花に由来します。産地でも紅花染めは行われており、体を温める効用を持つ紅花で染めた下着は、夏なお雪が残る出羽三山を参詣する行者がこぞって買い求めたと言います。

また、比叡山と古くから関係のある山寺の存在は、比叡山と縁故の深い「近江商人」たちをこの地に惹きつけました。山形の領主最上義光も積極的に商売上手な近江商人を誘致して上方との取引を盛んにしようとしたことから、やがて近江商人は山形市の中心部に店舗を構え、地元の商人とともに紅花交易を通して莫大な富をもたらし上方文化をこの地に伝えるとともに、山寺への寄進も行いました。これら紅花商人が時代とともに商売の形態を変えながら、現在も山形の経済を牽引し続けていることはこの地ならではの特徴と言えます。

このように山寺と紅花には深いつながりがあり、山寺の存在が紅花を通してこの地域を経済面でも文化面でも大きく発展させたのです。



花笠まつり



地域を見守る山寺からの景観

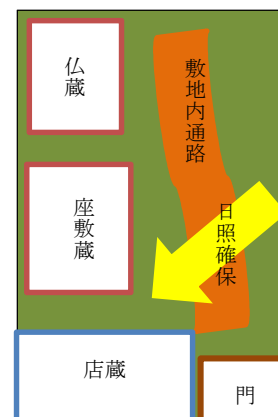


豪農屋敷の周囲に広がる紅花畑

■山寺と紅花交易がもたらした豊かな富と今に伝わる紅花文化

「最上紅花」と呼ばれた当地の紅花は、朱から真紅まで多様な色合いを出す貴重な染料であり、その価格は「米の百倍・金の十倍」と言われた高級品だったので、その交易は莫大な富を生みました。商人が集まる町場や産地には豪農や豪商が己の財力と格式を誇示する屋敷を構えました。この地には、紅花交易全盛期を偲ばせる立派な蔵屋敷が今も数多く残り、当時の栄華をうかがい知ることができます。また建物には当地ならではの特徴が見られます。

一つ目の特徴は、北前船で伝わった上方の座敷蔵文化と、羽州街道により伝わった江戸の店蔵文化が、同一敷地内で見られることです。屋敷の多くは、通りに面して門を建て、「店蔵（店舗兼住居）」、「座敷蔵（賓客をもてなす場）」、「仏蔵（仏間）」を建てました。江戸の土蔵造りは黒壁、上方は白壁を原則としますが、この地の蔵は全て白壁であり、上方文化の影響を見てとれます。また、羽州街道を利用した紅花交易も江戸時代の半ばから盛んになったので、江戸の店蔵文化が伝わりました。二つ目の特徴は、豪雪地ならではの建物の配置が見られることです。敷地は、通りに面して短冊状に割られ、敷地の北に寄せて建て、敷地の南に門を建て日照を確保するための敷地内通路が設けられています。三つ目の特徴は、「座敷蔵」では上方文化の調度品が数多く見られることです。住居のうち最も格式が高く、床の間、棚、書院付きの座敷蔵は耐火性と保存性に優れ、贅を尽くして収集された可憐な雛人形や紅花染め衣装、屏風などを眺めると往時の華やかな暮らしをうかがい知ることができます。産地の荷主は取引上しばしば上方へ出張しており、華麗な雛人形や紅花染め衣装に魅せられて買い求め土産としたものが今に伝えられています。自慢の雛人形はひなまつりの時期にそれぞれの自宅や蔵を開放して公開されます。それは当地に春を告げる風物詩です。その豪華さと数の多さを目にした人々は、かつての紅花交易がもたらした莫大な富に思いをはせます。



また、山寺立石寺の開山とともに伝えられ、谷地八幡宮や慈恩寺において毎年奉納される上方舞楽は、紅花染めの神聖な赤い衣装が用いられ、華やかに舞う姿は人々を魅了します。慈恩寺にはあでやかに唇に紅をさす化粧を施された秘仏が安置され、信仰を集めています。

紅花交易は食文化にも影響を与えました。当地の郷土料理「芋煮」は、秋に川原で食べる鍋料理です。紅花を上方に運んだ船頭が、地元の食材の里芋と帰り荷の棒鱈を川原で煮て食べたことが発祥と言われます。また、家庭料理として親しまれている「おみづけ（近江漬け）」は堰に流れる青菜等のくず野菜も無駄にせず漬物にして食し、儉約と商いに努めた近江商人由来の食文化です。

紅花は当地に莫大な富をもたらし、豊かな文化を今に伝えます。この地域を訪れる者は、山寺の情景と紅花畑、紅花豪農・豪商の蔵座敷そして雛人形など、様々な上方由来の文物を通して芭蕉もきっと目にしたに違いない、紅花で栄えた当地の隆盛を偲ぶことができるのです。



豪商屋敷が通りに並ぶ（門と白壁の店蔵）



春には自宅や蔵を開放してひな人形を公開



家庭料理「おみづけ」（近江漬け）

ストーリーの構成文化財一覧表

番号	文化財の名称 (※1)	指定等の状況 (※2)	ストーリーの中の位置づけ (※3)	文化財の所在地 (※4)
①	紅花畑の景観	未指定	紅花栽培は当地の気候風土と合い、江戸時代初期には全国生産の大半を占めた。西陣織や化粧用に加工される貴重な赤い染料。紅花は当地を経済面でも文化面でも大きく発展させた。	山形市、天童市、中山町、河北町
②	やまでら 山寺	国名勝史跡	紅花栽培の始まりとその発展に深くかかわりのある寺。比叡山との縁故から近江商人を惹きつけて、紅花交易の発展を加速させた。慈覚大師円仁が開基。	山形市
③	りっしやくじちゅうどう 立石寺中堂	国重文 (建造物)	紅花交易を地元の商人とともに発展させた近江商人を惹きつけた「不滅の法灯」が伝えられる山寺の本堂。比叡山延暦寺から分灯された。	山形市
④	じゅくしょうじかんのんどう 若松寺観音堂	国重文 (建造物)	山寺を開基した慈覚大師円仁を中興の祖とする天台宗の寺、若松寺の観音堂。若松寺は慈覚大師が大規模な造営工事を行い伽藍配置がなされた。	天童市
⑤	もがみがわ 最上川	未指定	最上川の氾濫原と朝霧や朝露がたちやすい気象条件が紅花栽培の適地となった。沿岸の集落が紅花の主要な産地であり、紅花は最上川を下って上方に運ばれた。	寒河江市、天童市、尾花沢市、中山町、河北町
⑥	べにもち 紅餅の製作技術	未指定	紅花に含まれる赤い色素はわずか1%。収穫後によく洗って黄色素を取り除き、干して丸めて乾燥させた紅餅の状態で出荷した。当地産の紅餅は品質の良い高級品で「最上紅花」と呼ばれその交易が当地に経済的発展をもたらした。	山形市、天童市、中山町、河北町
⑦	べにばなびょうぶ 紅花屏風	県指定 (絵画)	江戸時代、紅花栽培が盛んに行われていた当地の様子を伝えるもの。紅花の栽培から収穫、紅餅に加工する作業や上方へ運び取引する様子が分かる。	山形市

⑧	はながき 花笠まつり	未指定	花笠まつりで用いる花笠は、紅餅を 筵 ^{むしろ} に広げて干す様子を表している。 踊り手が花笠を手に列を作って練り 歩く様は一面の紅花畑が広がる光景 を再現している。	山形市、天童 市、尾花沢市
⑨	紅花まつり	未指定	江戸時代に当地で盛んに行われてい た紅花の収穫、紅餅づくり、紅花染め を体験できる。初夏のまつり。	山形市、天童 市、中山町、 河北町
⑩	紅花染め衣装 (亀綾織絹地鶴亀ニ 松竹梅福寿模様藍ニ墨 ト紅 曙 染女中裁 祝着) ^{かめあやおりきぬじつるかめ しょうちくばいふくじゅもようあいすみ べにあけぼのぞめおんなちゆうだち いわいぎ}	町指定 (有形民俗)	紅花は上方に運ばれたのちに西陣織 などの染料となった。産地の荷主が上 方から買い求めた紅花染め衣装が当 地には数多く残る。	河北町
⑪	紅花染め衣装 (揚柳上布地籬ニ春花 模様藍墨ト紅ノ 曙 染 車大振袖) ^{ようりゅうじょうふぢかき はるはな もようあいずみ べにあけぼのぞめ ひとえおおふりそで}	町指定 (有形民俗)	紅花は上方に運ばれたのちに西陣織 などの染料となった。産地の荷主が上 方から買い求めた紅花染め衣装が当 地には数多く残る。	河北町
⑫	紅花染め衣装 (元禄紅花染小袖) ^{げんろくべにばなぞめこそで}	町指定 (工芸品)	紅花は上方に運ばれたのちに西陣織 などの染料となった。産地の荷主が上 方から買い求めた紅花染め衣装が当 地には数多く残る。	山辺町
⑬	紅花染め衣装 (縮緬紅花染振袖A) ^{ちりめんべにばなぞめふりそで}	町指定 (工芸品)	紅花は上方に運ばれたのちに西陣織 などの染料となった。産地の荷主が上 方から買い求めた紅花染め衣装が当 地には数多く残る。	山辺町
⑭	紅花染め衣装 (縮緬紅花染振袖B) ^{ちりめんべにばなぞめふりそで}	町指定 (工芸品)	紅花は上方に運ばれたのちに西陣織 などの染料となった。産地の荷主が上 方から買い求めた紅花染め衣装が当 地には数多く残る。	山辺町
⑮	芭蕉の句碑	未指定	江戸時代に山寺参詣の途中、紅花畑を 目にした芭蕉が紅花を題材に句を詠 んだ。そのことを示す句碑が残る。	天童市
⑯	べに 紅の蔵及び収蔵資料 (旧長谷川家)	未指定	江戸時代、紅花商人(豪商)として活 躍した長谷川家の屋敷。通りに面し、 門を構え、店蔵、座敷蔵が残る。	山形市
⑰	芭蕉、 ^{せいふう} 清風歴史資料館 (旧丸屋鈴木家住宅)	未指定	江戸時代、紅花商人(豪商)として活 躍した鈴木清風を紹介する史料館と して活用されている。俳人でもあった 清風は松尾芭蕉に山寺参詣を勧め、そ の道中、芭蕉は紅花畑や山寺で名句を 残した。	尾花沢市

⑱	紅花資料館及び収蔵資料 (旧堀米家)	町指定 (建造物)	江戸時代、紅花商人(豪農)として活躍した堀米家の屋敷。立派な門を構え、堀と塀を設けて敷地を囲む。座敷蔵、御朱印蔵、母屋、武者蔵、雛人形、紅花染め衣装などが残る。	河北町
⑲	旧安部家住宅と屋敷 及び収蔵資料	町指定 (建造物)	江戸時代、紅花商人(豪農)として活躍した安部家の屋敷。黒塀に囲まれ、蔵や調度品などが残る。	河北町
⑳	旧柏倉家住宅及び収蔵資料	県指定 (建造物)	江戸時代、紅花商人(豪農)として活躍した柏倉家の屋敷。立派な門を構え、黒塀で敷地を囲む。座敷蔵には上方由来の雛人形を始め、数多くの調度品が残る。	中山町
㉑	ふるさと資料館及び収蔵資料 (旧佐藤家)	未指定	江戸時代、紅花商人(豪農)として活躍した佐藤家の屋敷。雛人形や紅花染め衣装が残る。	山辺町
㉒	じろうざえもんおきあ たちひな 次郎左衛門置上げ立雛	町指定 (工芸品)	紅花で栄えた商家が上方から買い求めた華やかな雛人形が当地には数多く残る。	河北町
㉓	きょうほうだいいりひな 享保内裏雛	町指定 (工芸品)	紅花で栄えた商家が上方から買い求めた華やかな雛人形が当地には数多く残る。	河北町
㉔	ごしよにんぎょう 御所人形	町指定 (工芸品)	紅花で栄えた商家が上方から買い求めた華やかな雛人形が当地には数多く残る。	河北町
㉕	からくり人形	町指定 (工芸品)	紅花で栄えた商家が上方から買い求めた華やかな雛人形が当地には数多く残る。	河北町
㉖	ひな市 (ひなまつり)	未指定	紅花交易の帰り荷として当地に残る雛人形は、毎年2～4月に各地で開催されるひな市にあわせて公開される。自宅や蔵などを開放して雛人形を公開する。ひな市は当地の春の風物詩。露店が立ち賑わう。	山形市、寒河江市、天童市、尾花沢市、山辺町、中山町、河北町
㉗	はやしけぶがく 林家舞楽	国無形民俗	山寺立石寺建立とともに上方より伝えられた舞楽。谷地八幡宮神職林家が一子相伝で1,100余年伝えるもの。紅花染めの衣装が用いられる。	河北町
㉘	おばなざわがく 尾花沢雅楽	市指定 (無形)	紅花交易が盛んだったころ、最上川舟運により運ばれた宮廷の風雅な調べを今に伝える。	尾花沢市

②⑨	尾花沢まつり囃子 ^{はやし}	市指定 (無形)	紅花交易が盛んだったころ、最上川舟運により運ばれた宮廷の流れを組む組曲を今に伝える。	尾花沢市
③⑩	やち ^{はちまんぐう} 谷地八幡宮	未指定	毎年 9 月、林家舞楽が奉納される。上方由来の舞楽を紅花染め衣装を身にまとった楽人が舞う。	河北町
③⑪	じおん ^{じきゅうけいだい} 慈恩寺旧境内	国史跡	毎年 5 月、林家舞楽が奉納される。上方由来の舞楽を紅花染め衣装を身にまとった楽人が舞う。	寒河江市
③⑫	もくぞう ^{みろくぼさつ} 木造弥勒菩薩及び諸尊像 附 弥勒菩薩像像内 ^{しよそんぞう} のうにゆうひん ^{みるくぼさつぞうぞうない} 納入品	国重文 (彫刻)	唇に紅をさす化粧を施された本山慈恩寺の秘仏。かつて寒河江市は紅花の主産地のひとつであり、紅花を売り買いした「花買場」という地名が市内に残る。	寒河江市
③⑬	じおん ^{じほんどう} 慈恩寺本堂	国重文 (建造物)	唇に紅をさす化粧を施された秘仏が伝わる本堂。	寒河江市
③⑭	いもに ^{芋煮}	未指定	江戸時代、紅花を運んだ最上川の船頭が、地元の里芋と帰り荷の棒鱈を川原で煮て食べたことが発祥と伝わる当地の郷土料理。川原で食す「芋煮会」は当地の秋の風物詩。	山形市、寒河江市、天童市、尾花沢市、山辺町、中山町、河北町
③⑮	おみづけ ^{おうみづ} (近江漬け)	未指定	近江商人由来の漬物。家庭料理として親しまれている。江戸時代、当地に移り住んだ近江商人は堰に流れる青菜等の野菜くずも無駄にせず漬物にして食した。	山形市、寒河江市、天童市、尾花沢市、山辺町、中山町、河北町

(※ 1) 文化財の名称には適宜振り仮名を付けること。

(※ 2) 指定・未指定の別、文化財の分類を記載すること（例：国史跡、国重文（工芸品）、県史跡、県有形、市無形等）。

(※ 3) 各構成文化財について、ストーリーとの関連を簡潔に記載すること（単に文化財の説明にならないように注意すること）。

(※ 4) ストーリーのタイプがシリアル型の場合のみ、市町村名を記載すること（複数の都道府県にまたがる場合は都道府県名もあわせて記載すること）。

構成文化財の写真一覧

①紅花畑の景観



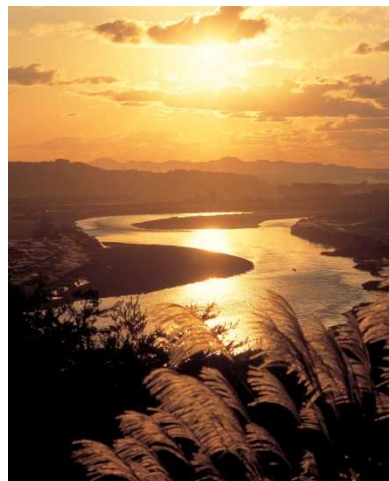
④若松寺観音堂



②山寺



⑤最上川



③立石寺中堂



⑥紅餅の製作技術



⑦紅花屏風



⑧花笠まつり



⑨紅花まつり



⑩紅花染め衣装

(亀綾織絹地鶴亀二松竹梅福寿模様
藍二墨ト紅曙染女中裁祝着)



⑪紅花染め衣装

(楊柳上布地籬二春花模様藍墨ト
紅ノ曙染単大振袖)



⑫紅花染め衣装 (元禄紅花染小袖)



⑬紅花染め衣装（縮緬紅花染振袖A）



⑭紅花染め衣装（縮緬紅花染振袖B）



⑮芭蕉の句碑



⑯紅の蔵（旧長谷川家）



⑰芭蕉、清風歴史資料館
（旧丸屋鈴木家住宅）



⑱紅花資料館（旧堀米家）



⑱旧安部家住宅と屋敷



㉒次郎左衛門置上げ立雛



㉓旧柏倉家住宅



㉔享保内裏雛



㉕ふるさと資料館（旧佐藤家）



㉖御所人形



②⑤からくり人形



②⑧尾花沢雅楽



②⑥ひな市 (ひなまつり)



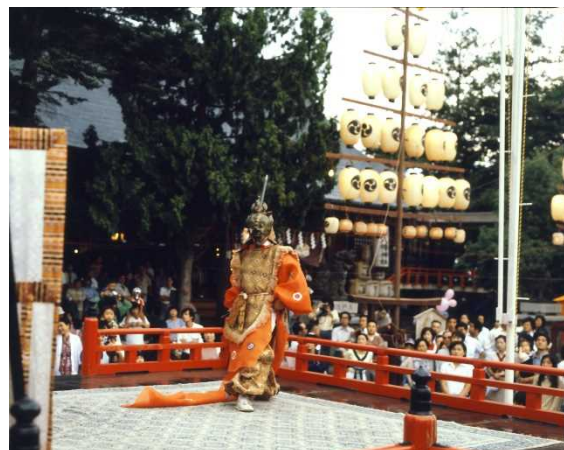
②⑨尾花沢まつり囃子



②⑦林家舞楽



③⑩谷地八幡宮



③①慈恩寺旧境内



③④芋煮



③②木造弥勒菩薩及び諸尊像
附 弥勒菩薩像像内納入品



③⑤おみつけ



③③慈恩寺本堂



日本遺産を通じた地域活性化計画【山寺が支えた紅花文化】

(1) 将来像（ビジョン）

山形を代表する観光地「山寺」と山形県の花「紅花」。これらは、地域住民に広く親しまれているが、その歴史的・文化的なつながりについては、よく知られているとは言えない。山寺の存在が紅花文化を支え、村山地域を大きく発展させてきた歴史を知ることにより、地域住民がこの地に息づく有形・無形の歴史的魅力を再認識し、郷土への誇りと愛着を一層高めることができる。そして、この地域を訪れる国内外の観光客に対して、歴史を踏まえたこの地域ならではの魅力を体験してもらうことができる。これらは、村山地域の市町に共通した特徴であり、かつ、市町ごとに特色がある。

今回の日本遺産の認定を通して、村山地域の人々が、他の地域にはない「山寺・紅花」の魅力を共有し、地元と産学官が連携して、文化財・観光・農業それぞれの取組みを融合して発信することにより、相乗効果が発揮され、広域的な文化・産業振興スタイルが確立されて、持続的に発展していく姿を目指していく。

そのためにも、各構成自治体において次期の総合発展計画に「日本遺産」を盛り込むことを検討し、日本遺産の視点を踏まえたこの地域の観光振興・地域活性化について議論をしながら意識の共有を図り、この地域が将来にわたって発展し続けるために必要な取組みを展開していく。

(2) 地域活性化のための取組の概要

1. 村山地域の魅力を国内外に向けて発信する

村山地域には、奇岩怪石と芭蕉の名句で知られる国指定名勝史跡「山寺」や、「紅花交易」により上方からもたらされた富（豪農・豪商屋敷の蔵座敷）と文化（雛人形、紅花染め衣装、屏風等）等の歴史的文化財をはじめとして、春には各地で開催される雛まつり、早夏には紅花まつりや紅花染め・紅花摘み体験、秋には紅花染め衣装をまとうて舞う国指定重要無形民俗文化財「林家舞楽」など、地域色豊かな魅力が数多くある。

また、貴重な仏像群と若返りで知られる「慈恩寺」や縁結びで知られる「若松寺」、「花笠まつり」をはじめとする地域色豊かなまつり、紅花交易の最上川舟運が発祥の「芋煮会」など、山寺・紅花と関連する魅力も数多い。

これらの魅力を国内外に広く知っていただくため、多言語対応による戦略的な情報発信などの取組みを行うこととし、海外旅行客をはじめとする国内外からの集客力を一層高めていく。

2. 地域の文化財の価値の理解と魅力の向上を図る

「山寺」と「紅花」の歴史的・文化的なつながりが、村山地域の今日の発展に息づいていることについて、地元住民が理解を深め、その魅力を再認識し地域への誇りを醸成するため、地域の「宝」・山形県の「宝」としての保存・活用等の普及啓発及び調査研究、児童生徒を対象としたシビックプライドなどの取組みを行う。

これらにより、将来にわたって郷土愛を醸成し、地域の歴史的建造物の守り手や地域伝統文化の担い手の確保につなげるとともに、地域の魅力を国内外からの訪問客にアピールしていく。

3. 受入環境を整備し、観光客等の利便性の向上を図る

外国人旅行客などの来訪者が、村山地域を訪れてその魅力を十分に満喫できるよう、来訪者向けの案内体制（案内ガイド等）の整備を図るとともに、来訪者の利便性向上のための案内板等の整備を行い、おもてなしの心の醸成を含めた受入れ環境の整備を行う。

特に、「山寺」については、奇岩怪石と五大堂から眺める絶景が、訪れる者に驚きと感動を与え、心身ともに爽やかな体験ができることが大きな魅力であることから、観光客にこの魅力を満喫していただくため、案内体制の一層の充実を図る。

また、紅花豪農・豪商屋敷の「蔵座敷」については、河北町の紅花資料館（旧堀米家）、山形市の「紅の蔵」（旧長谷川家）、中山町の旧柏倉家住宅、山辺町のふるさと資料館（旧佐藤家）など広く一般公開されており、観光客はかつての栄華に触れることができる。これら施設の案内機能を一層充実させるとともに、紅花染めの体験など観光客が紅花文化を体感できる取組みを幅広く展開していく。さらには、村山地域に数多く存在する未公開の蔵座敷についても、活用に向けた調査等を進め、できるだけ多く一般公開できるよう地元や所有者に促しながら、観光客の受入れ環境を整備していく。

これらにより、観光客が四季を問わずいつでも楽しむことができるよう、利便性を向上させて交流人口の拡大につなげるとともに、将来にわたって地域に根差した取組みとして定着させていく。

4. 村山地域の魅力を活かした観光振興を図る

村山地域には、「山寺」や「紅花」に関連した独自の文化や風習が息づいている。俳人松尾芭蕉は、紅花商人の勧めで山寺を訪れ、「閑かさや岩にしみいる蟬の声」の名句を詠んだが、山寺では全国俳句大会が毎年開催されている。また、東北四大夏祭り「花笠まつり」を彩るのは、「紅花」をあしらった花笠であり、観客は、紅花の笠の波がうねり咲く様子に、かつて一面に咲き誇った紅花畑をオーバーラップして楽しむことができる。さらには、秋の風物詩となった「日本一の芋煮会」では、誰もが直径6mの大鍋で作られた3万食の芋煮を味わうことができる。そのほかにも、この地域の全市町に湧き出る温泉や、スノーモンスター「樹氷」、山岳トレッキングなどの自然体験、そば（冷たい肉そば）とラーメン（冷やしラーメン）、「山形牛」と「地酒」、「つや姫」や「さくらんぼ」など、四季折々の多彩な魅力がある。

これらの魅力を観光振興に活かすため、観光ツアーの充実に向けたモニターツアーなど実感・体感型の取組みを積極的に実施し、この地域ならではの歴史・文化と、これら季節感あふれる魅力を組み合わせた様々な企画により、観光交流人口の拡大と地域経済の活性化を図っていく。

5. 食文化の発信及び特産品開発により産業振興を図る

村山地域における郷土料理など地元食文化を紹介・伝承し、地域特産品・土産品の開発や販路拡大などの取組みを、関係団体と連携しながら進めていく。特に、「紅花」については、乾燥花や加工品にとどまらず、現在進めている「通年水耕栽培」の成果を観光等に最大限活用していくとともに、紅花の若芽を使った料理や紅花生産の拡大など、農業関係機関・団体とも緊密に連携しながら展開していく。これらにより、地域の独自性を一層高め、相乗効果を発揮して、産業振興や地域経済の活性化につなげていく。

(3) 自立的・継続的な取組				
<p>推進体制の自立に向けた取組み方針</p> <p>協議会を持続的かつ安定的に運営していくため、当初は協議会を構成する自治体を中心となり、当面の間は、県が事務局となつて、関係する機関・団体及び地元等の参画・協力のもと、協議会の自立のため必要な経費については構成自治体が応分の負担を行いながら運営する。</p> <p>日本遺産認定に係る補助事業が受けられる間は、情報発信や普及啓発、受入環境整備など、採算性の確保が難しい分野の取組みを重点的に実施しながら、当該補助事業の終了を見据えて自立的運営に必要な収入確保を検討し取り組むなど、経済的基盤づくりを行う。</p> <p>〔収入確保の例〕 協議会（日本遺産）ホームページでの広告収入、公開施設での入館料設定、紅花体験・寺社参詣・街なか蔵座敷等のツアー収入、企業・飲食店等とタイアップした特産品開発・販売、補助事業・委託事業の受皿可能性など</p> <p>これら基盤づくりを行いながら、協議会の取組みに賛同する機関・団体・企業・個人等に対して、広く参画又は協力をお願いし、協議会の構成メンバーや活動資金、運営形態（事務局）などについて見直しを行う。</p> <p>具体的には、①協議会の構成メンバーが主体となつて法人格を取得し、地域連携DMOを新たに設立して事業運営する方向性を目指すことを基本としつつ、②DMO登録済の構成メンバー（(公社)山形県観光物産協会）との連携・役割分担についても検討するなどして、協議会を将来的に安定し自立した体制にしていける。</p>				
(4) 実施体制				
<p>1. 推進体制の整備</p> <p>将来像（ビジョン）に掲げる目的を実現するため、県及び村山地域の関係自治体、観光関係団体、生産団体、民間事業者から構成する協議会を設置する。</p> <p>協議会等の名称 構成団体 「山寺が支えた紅花文化」推進協議会（仮）</p> <p>山形県（観光文化スポーツ部、農林水産部） 山形県教育委員会（文化財・生涯学習課） 山形市、寒河江市、天童市、尾花沢市、山辺町、中山町、河北町（各観光担当課及び農業担当課） 山形市教委、寒河江市教委、天童市教委、尾花沢市教委、山辺町教委、中山町教委、河北町教委（各文化担当課） 山形県観光物産協会 ※〔地域連携DMO登録〕県域（観光団体） 山形市、寒河江市、天童市、尾花沢市、山辺町、中山町、河北町の各観光協会 山寺観光協会 ※地元（観光団体） 宝珠山立石寺 ※地元（寺社） 東北観光推進機構 ※広域（観光団体） 山形県紅花生産組合連合会 ※生産（農業団体） 山形県紅花振興協議会 ※生産・地域振興（農業団体） おいしい山形推進機構 ※流通販売・6次産業化（農業団体）</p> <p>2. 効果的な取組みに向けて</p> <p>事業の実施にあたっては、各構成機関・団体を通じて教育分野・観光（商工）及び農業分野が連携し、一体となって進めていく。</p> <p>この場合、紅花生産・観光・地元等の各関係団体は、現在、それぞれの取組みを展開していることから、まずは、協議会における話し合いを通して、将来像（ビジョン）を共有し、それぞれの取組みに「日本遺産」のねらいをインプットしながら展開していく。それと併せて、分野を横断するテーマや取組みなど斬新なアイデアを様々な方々の意見を聞きながら取り入れ、横のネットワークによる相乗効果を幅広い分野で発揮していく。そのために協議会は、幹事会・事務局会の開催を通して、臨機応変に必要な団体・個人、地域のDMOなどに参画してもらい、また、必要に応じて、分野別にワーキンググループを設置してグループリーダーのもとで具体的内容を企画するなど、情報と課題の共有を図ることができる体制としていく。</p> <p>加えて、地域活性化や地元の魅力発信などのノウハウを有する者を、必要に応じて、アドバイザーとして招へいして助言等を得るとともに、マーケティングデータ等の現状把握を踏まえて、ターゲットを絞った観光誘客を行う等戦略的に取組み、補助金の投資効果が最大限に発揮されるよう展開していく。</p>				
(5) 地域活性化計画における目標と期待される効果			定量的評価：	別紙①のとおり
期待される効果：	<ul style="list-style-type: none"> ・「山寺」と「紅花」の歴史的・文化的つながりを通じて村山地域の魅力をPRすることで、海外旅行者など国内外からの観光入込者数が増加し、観光振興及び地域活性化が強く図られることが期待できる。 ・「山寺」と「紅花」の関わりが今日の発展に息づいていることを通じて、地域の歴史文化に愛着を感じる県民が増加するとともに、歴史的建造物や伝統文化の担い手の確保が図られることが期待できる。 ・観光客の利便を向上させて交流人口の増加を図るとともに、産業間が連携して新たな企画商品・サービスを提供することで、地域経済の活性化を牽引する体制を構築し、将来にわたって持続的な発展を図ることが期待できる。 			
(6) 日本遺産魅力発信推進事業			別紙②のとおり	
補助金額：	平成30年度：	42,100千円	平成31年度：	26,300千円
			平成32年度：	8,800千円
(7) その他事業			別紙③のとおり	

（５）地域活性化計画における目標と期待される効果

設定目標Ⅰ：	日本遺産を活用した集客・活性化			
計画評価指標：	観光客入込み数（具体的な指標は次のとおり）			
具体的な指標：	村山地域における観光入込客数			
目標値：	平成 28 年度	22,208,500 人	⇒	平成 35 年度 29,761,500 人
設定根拠：	現状値の基点は、直近の「山形県観光者数調査（平成28年度）」による。直近 3 年間（H26～H28）の伸び率104.6%に対し、平成29年度は同数（100%）とし、平成30年度以降は、毎年度、対前年度比105%の伸び率の達成を設定。			
設定目標Ⅰ：	日本遺産を活用した集客・活性化			
計画評価指標：	観光客入込み数（具体的な指標は次のとおり）			
具体的な指標：	外国人入込客数（村山地域における宿泊・立寄の受入実績）			
目標値：	平成 28 年度	68,385 人	⇒	平成 35 年度 91,600 人
設定根拠：	現状値の基点は、直近の「山形県観光者数調査（平成28年度）」による。H27～H28の伸び率145.6%がチャーター便運航等の要因であることに鑑み、平成29年度は同数（100%）とし、平成30年度以降は、毎年度、対前年度比105%の伸び率の達成を設定。			
設定目標Ⅰ：	日本遺産を活用した集客・活性化			
計画評価指標：	観光客入込み数（具体的な指標は次のとおり）			
具体的な指標：	山寺における観光入込客数			
目標値：	平成 28 年度	740,600 人	⇒	平成 35 年度 884,300 人
設定根拠：	現状値の基点は、直近の「山形県観光者数調査（平成28年度）」による。直近 3 年間（H26～H28）の伸び率97.1%に対し、平成29年度は同数（100%）とし、平成30年度以降は、毎年度、対前年度比103%の伸び率の達成を設定。			
設定目標Ⅰ：	日本遺産を活用した集客・活性化			
計画評価指標：	経済効果（具体的な指標は次のとおり）			
具体的な指標：	観光消費額			
目標値：	平成 28 年度	204,818 百万円	⇒	平成 35 年度 237,400 百万円
設定根拠：	現状値の基点は、直近の「山形県観光者数調査（平成28年度）」による。直近 3 年間（H26～H28）の伸び率97.1%に対し、平成29年度は同数（100%）とし、平成30年度以降は、毎年度、対前年度比103%の伸び率の達成を設定。 （算定上、山形県の日本人観光目的・ビジネス目的・訪日外国人の合計値を記載）			
設定目標Ⅱ：	日本遺産を核としたコミュニティの再生・活性化			
計画評価指標：	地域の文化に誇りを感じる住民の割合（具体的な指標は次のとおり）			
具体的な指標：	アンケート調査による「地域の文化に愛着を感じる」の割合			
目標値：	平成 30 年度	100 %	⇒	平成 35 年度 150 %
設定根拠：	日本遺産認定後（H30）、県民アンケート調査（日本遺産HP）を実施。肯定的回答者数を100%とし、平成31年度以降1年ごとに10%増の達成を設定。			

設定目標Ⅲ：	日本遺産に関する取組を行うための持続可能な体制の維持・確立
計画評価指標：	日本遺産への協力団体数（具体的な指標は次のとおり）
具体的な指標：	日本遺産の趣旨に賛同し、取組みに参画又は協力する団体数（企業・個人含む。）
目標値：	平成 30 年度 15 団体 ⇒ 平成 35 年度 23 団体
設定根拠：	日本遺産認定時点（H30）で活動母体である推進協議会の構成メンバーとなる15団体を100%とし、平成31年度以降1年ごとに10%増の達成を設定。
設定目標Ⅲ：	日本遺産に関する取組を行うための持続可能な体制の維持・確立
計画評価指標：	日本遺産関連で開発された商品・サービス数（具体的な指標は次のとおり）
具体的な指標：	日本遺産の取組みと連携して開発された観光関連の企画商品（ツアー）や6次産業の企画商品（紅花の加工品・生産品）の数
目標値：	平成 30 年度 70 個 ⇒ 平成 35 年度 105 個
設定根拠：	日本遺産認定時点（H30）で、推進協議会の構成メンバーが開発済み数を100%とし、平成31年度以降1年ごとに、他企業・団体の取組みを含めて10%増の達成を設定。

(6) 日本遺産魅力発信推進事業

事業①:	日本遺産ポータルサイト開設事業			
事業区分:	情報発信	事業期間:	平成 30 年度 ~ 平成 31 年度	
補助金額:	平成30年度: 6,000千円	平成31年度: 0千円	平成32年度: 0千円	
(積算)	H P 構築: 3,000千円 + 5 言語化: 1,000千円 = 4,000千円 システム構築: 2,000千円			
事業概要:	・多言語対応の日本遺産専用ポータルサイトを開設する。(P C 用、スマホ用) (重点テーマ) ・通年観光: 山寺の見どころ、紅花豪農・豪商屋敷の蔵座敷マップなど ・季節観光: 雛まつり、紅花まつり、花笠まつり、芋煮会、林家舞楽など			
評価指標区分:	ホームページ閲覧数 (P V 数)	(具体的な指標は次のとおり)		
具体的な指標:	H30にポータルサイト開設後の当該H P へのアクセス数			
目標値:	平成 29 年度 (未開設) 回	⇒	平成 35 年度 100,000 回	
事業②:	観光プロモーション映像制作事業			
事業区分:	情報発信	事業期間:	平成 30 年度 ~ 平成 31 年度	
補助金額:	平成30年度: 3,000千円	平成31年度: 3,000千円	平成32年度:	
(積算)	P V 制作費: 1,800千円 編集費: 1,200千円	P V 制作費: 1,800千円 編集費: 1,200千円		
事業概要:	・多言語対応の観光プロモーション映像を制作し、首都圏A D ビジョン及びH P 掲載で活用する。 H30: 秋冬バージョン、H31: 春夏バージョン を制作			
評価指標区分:	ホームページ閲覧数 (P V 数)	(具体的な指標は次のとおり)		
具体的な指標:	H30にポータルサイト開設後、当該H P における動画再生回数又はダウンロード数			
目標値:	平成 29 年度 (未開設) 回	⇒	平成 35 年度 10,000 回	
事業③:	「日本遺産インフォメーションブース」設置事業			
事業区分:	情報発信	事業期間:	平成 31 年度 ~ 平成 32 年度	
補助金額:	平成30年度:	平成31年度: 10,000千円	平成32年度:	
(積算)		展示ブース設計費 + 展示物製作・展示工事費一式10,000千円		
事業概要:	・山寺及び紅花の観光拠点となる施設に「日本遺産インフォメーションブース」を設置し、多言語情報を提供する。			
評価指標区分:	外国人入込み数	(具体的な指標は次のとおり)		
具体的な指標:	村山地域への外国人入込み数 (宿泊・立寄の受入実績) (山形県観光者数調査による。)			
目標値:	平成 28 年度 68,385 人	⇒	平成 35 年度 91,600 人 (毎年度105%増)	
事業④:	国内外来訪者向けの案内ガイド整備事業			
事業区分:	人材育成	事業期間:	平成 30 年度 ~ 平成 31 年度	
補助金額:	平成30年度: 1,600千円	平成31年度: 400千円	平成32年度:	
(積算)	案内ガイドマニュアル作成: @ 1,000×1,500部 = 1,500千円 案内ガイド募集P R (募集案内作成、H P、説明・相談等) 経費 一式100千円	案内ガイド養成講師: @50千円 × 8回 = 400千円		
事業概要:	・H30に、案内ガイド用マニュアルを作成する (既存の観光ガイド及び次年度の養成用) とともに、案内ガイドを量的に拡大するため、新規ボランティアガイドを募集する。 ・H31に、当該マニュアルを使用して、新規ボランティアを含む案内ガイド養成研修を実施し、多言語に対応した観光ガイドを育成する。			
評価指標区分:	ガイド育成講座修了者の後年度活動者数	(具体的な指標は次のとおり)		
具体的な指標:	日本遺産関連ガイド養成講座修了者の後年度活動者数			
目標値:	平成 29 年度 (未実施) 人	⇒	平成 35 年度 研修修了者の50% 人	

事業⑤：		シンポジウム及び現地研修会開催事業				
事業区分：		普及啓発		事業期間：	平成 30 年度 ～ 平成 31 年度	
補助金額：		平成30年度： 2,500千円		平成31年度： 1,200千円		平成32年度： 0千円
(積算)		日本遺産シンポジウム開催：1,000千円×2回 日本遺産現地研修会開催：100千円×5市町＝500千円		日本遺産シンポジウム開催：1,000千円 日本遺産現地研修会開催：100千円×2市町＝200千円		
事業概要：		・日本遺産の認知度を高めるため日本遺産シンポジウムを開催する。（H30は地元市町と県内の2回、H31は首都圏の1回） ・住民向けに日本遺産現地研修会を開催する。（構成7市町のうち、H30は5市町、H31は2市町）				
評価指標区分：		日本遺産の認知度				(具体的な指標は次のとおり)
具体的な指標①：		県民アンケート調査（H30：HP）による「日本遺産（ストーリー）に関心を持った」の割合				
目標値①：		平成 30 年度 100 %		⇒	平成 35 年度 150 %	
具体的な指標②：		村山地域における観光客入込客数				
目標値②：		平成 28 年度 22,208,500 人		⇒	平成 35 年度 29,761,500 人 (毎年度105%増)	
事業⑥：		博物館等における企画展示事業				
事業区分：		普及啓発		事業期間：	平成 30 年度 ～ 平成 31 年度	
補助金額：		平成30年度： 1,000千円		平成31年度： 0千円		平成32年度： 0千円
(積算)		博物館における企画展：1,000千円				
事業概要：		・博物館や図書館等において日本遺産をテーマとした「企画展」を開催する。				
評価指標区分：		日本遺産の認知度				(具体的な指標は次のとおり)
具体的な指標：		博物館入館者へのアンケート調査による「日本遺産（ストーリー）に関心を持った」の割合				
目標値：		平成 30 年度 100 %		⇒	平成 35 年度 150 %	
事業⑦：		地域の歴史文化資源の調査研究事業				
事業区分：		調査研究		事業期間：	平成 30 年度 ～ 平成 32 年度	
補助金額：		平成30年度： 500千円		平成31年度： 500千円		平成32年度： 1,500千円
(積算)		調査・収集（蔵座敷）：500千円		調査・収集（未指定文化財他）：500千円		デジタル・アーカイブ記録保存・システム構築業務委託（HP作成等）一式：750千円 ・コンテンツ構築業務委託（取材、編集等）一式：750千円
事業概要：		・村山地域の歴史文化資源（未指定文化財を含む）の資料収集を行い、電子的に保存・継承する「デジタル・アーカイブ」を構築する。コンテンツは自由閲覧とし、また情報は番組や印刷物で活用し、海外に発信するためのツールとして活用する。特に、村山地域の「蔵座敷」をリスト化して整理し、一般公開の拡大や保存、観光誘客等に活用する。				
評価指標区分：		日本遺産の認知度				(具体的な指標は次のとおり)
具体的な指標：		「デジタル・アーカイブ」コンテンツの閲覧数及びダウンロード数				
目標値：		平成 29 年度 (未開設) 回		⇒	平成 35 年度 10,000 回	
事業⑧：		児童・生徒を対象としたシビック・プライドの醸成事業				
事業区分：		普及啓発		事業期間：	平成 30 年度 ～ 平成 31 年度	
補助金額：		平成30年度： 6,000千円		平成31年度： 0千円		平成32年度： 0千円
(積算)		副読本作成：@50×120,000部＝6,000千円				
事業概要：		・村山地域に対するシビック・プライド（地域の誇り）を醸成するため、地域の小・中・高校生を対象として、地域の文化資源をクリエイティブに紹介する副読本を制作する。 学校教育の一環として地域文化に関する学習を深める。				
評価指標区分：		日本遺産の認知度				(具体的な指標は次のとおり)
具体的な指標：		県民アンケート調査（H30：HP）による小中高生の「地域の文化に愛着を感じる」の割合				
目標値：		平成 30 年度 100 %		⇒	平成 35 年度 150 %	

事業⑨：		観光ツアーの充実に向けたモニターツアー実施事業						
事業区分：		普及啓発		事業期間：	平成 31 年度 ～ 平成 32 年度			
補助金額：		平成30年度：	平成31年度：	2,600千円	平成32年度：		0千円	
(積算)			モニターツアー実施：1,300千円×2回（旅行エージェント、在日外国人）＝2,600千円					
事業概要：		・首都圏旅行エージェントや在日外国人等を対象のモニターツアーを実施する。 ・なお、H32以降は、モニターツアーによる意見を踏まえたテーマによる企画ツアーを、観光部局等が主体となって実施していく。						
評価指標区分：		日本遺産に関する旅行商品数			(具体的な指標は次のとおり)			
具体的な指標：		「山寺」や「紅花豪農・豪商の蔵座敷」、紅花文化（雛まつり）など、日本遺産に関連するまち歩き・歴史ルートの設定数						
目標値：		平成 29 年度	18 件	⇒	平成 35 年度	27 件		
事業⑩：		紅花体験モデルツアー実施事業						
事業区分：		普及啓発		事業期間：	平成 31 年度 ～ 平成 32 年度			
補助金額：		平成30年度：	平成31年度：	1,300千円	平成32年度：			0千円
(積算)			モデルツアー実施：1,300千円					
事業概要：		・紅花摘みや紅餅加工、紅花染め、飾り花など、紅花を使った体験ツアーを発掘・拡充するため、体験工房等を巡るモデルツアーを実施する。 ・なお、実施後は、モデルツアーによる意見を踏まえた体験ツアーを観光部局等が主体となって実施していく。						
評価指標区分：		日本遺産に関する旅行商品数			(具体的な指標は次のとおり)			
具体的な指標：		紅花体験ツアーの設定数						
目標値：		平成 29 年度	14 件	⇒	平成 35 年度	21 件		
事業⑪：		地元食文化の伝承と地域特産品の販路拡大事業						
事業区分：		普及啓発		事業期間：	平成 31 年度 ～ 平成 32 年度			
補助金額：		平成30年度：	平成31年度：	300千円	平成32年度：			300千円
(積算)			地元食文化の伝承イベント開催（県内）：一式300千円		地元食文化の伝承イベント開催（県外）：一式300千円			
事業概要：		・村山地域に残る独自の食文化や郷土料理を伝承し、その魅力を多くの方々に楽しんでいただくため、情報発信と普及啓発を兼ねたイベント等を開催する。（H31は県内、H32は県外で開催する。） ・また、商工団体や農業団体と連携して、特産品や土産品などの開発や販路開拓を行う。						
評価指標区分：		日本遺産に関する旅行商品数			(具体的な指標は次のとおり)			
具体的な指標：		日本遺産に関連する特産品や土産品の数（「山寺」の新たな企画商品や「紅花」の加工品・生産品など）						
目標値：		29 年度	13 件	⇒	平成 35 年度	20 件		
事業⑫：		国内外来訪者の利便性向上のための案内板等の整備事業						
事業区分：		公開活用のための整備		事業期間：	平成 30 年度 ～ 平成 32 年度			
補助金額：		平成30年度：	16,500千円	平成31年度：	0千円	平成32年度：		5,000千円
(積算)		解説板設置：@750千円×10基＝7,500千円 案内板設置：@1,000千円×9基＝9,000千円				多言語音声ガイド端末：一式5,000千円		
事業概要：		・H30に、構成文化財の歴史や見どころ等を分かりやすく多言語で説明する解説板と案内板を製作設置する。 ・H32に、解説を聞きながら回れる多言語音声ガイド端末（ARや博物館等で貸し出す音声ガイド機器等）を整備する。						
評価指標区分：		施設への入込み数			(具体的な指標は次のとおり)			
具体的な指標①：		村山地域の重要な構成文化財（名所旧跡）への入込数（山形県観光者数調査による。）						
目標値①：		平成 28 年度	3,093,800 人	⇒	平成 35 年度	3,694,100 人 (毎年度103%増)		
具体的な指標②：		山寺における観光入込客数（山形県観光者数調査による。）						
目標値②：		平成 28 年度	740,600 人	⇒	平成 35 年度	884,300 人 (毎年度103%増)		

事業⑬：		国内外来訪者の利便性向上のための案内施設整備事業				
事業区分：	公開活用のための整備		事業期間：	平成 31 年度	～ 平成 32 年度	
補助金額：	平成30年度：	0千円	平成31年度：	5,000千円	平成32年度：	0千円
(積算)			案内施設の改修工事：一式 5,000千円			
事業概要：	・観光客向けの案内施設（休憩所等）を日本遺産の展示スペースを含む用途に改修する。					
評価指標区分：	施設への入込み数			(具体的な指標は次のとおり)		
具体的な指標：	村山地域の重要な構成文化財（名所旧跡）への入込数（山形県観光者数調査による。）					
目標値：	平成 28 年度	3,093,800 人	⇒	平成 35 年度	3,694,100 人 (毎年度103%増)	
事業⑭：		紅花豪農・豪商「蔵座敷」の受入環境整備事業				
事業区分：	公開活用のための整備		事業期間：	平成 30 年度	～ 平成 32 年度	
補助金額：	平成30年度：	5,000千円	平成31年度：	2,000千円	平成32年度：	2,000千円
(積算)	蔵座敷内の展示機能整備（既存公開建物）：@500千円×6施設＝3,000千円 一般公開に向けた蔵座敷整備（未公開建物）：@1,000千円×2基＝2,000千円		一般公開に向けた蔵座敷整備（未公開建物）：@1,000千円×2基＝2,000千円		一般公開に向けた蔵座敷整備（未公開建物）：@1,000千円×2基＝2,000千円	
事業概要：	・H30に、一般公開を行っている蔵座敷の展示機能（設備等）を整備する ・H30以降毎年、現在未公開の蔵座敷を、地元・所有者の理解を得たものから順次一般公開に向けて整備する。					
評価指標区分：	施設への入込み数			(具体的な指標は次のとおり)		
具体的な指標：	村山地域の重要な構成文化財（名所旧跡）のうち、一般公開「蔵座敷」を有する施設等への入込数					
目標値：	平成 29 年度	A（集計値） 人	⇒	平成 35 年度	A×150% 人	

(7) その他事業

事業①:	「未来に伝える山形の宝」登録制度推進事業				
機関・団体:	都道府県	:	山形県	事業期間:	平成 25 年度 ~ 平成 年度
事業概要:	・寒河江市による「出羽の地に華開いた仏教文化 慈恩寺「悠久の魅力」」の保存・活用活動について助成支援を行う。 …本山慈恩寺本堂、慈恩寺舞楽を含む建造物、仏像群、無形民俗文化財など				
事業②:	「未来に伝える山形の宝」登録制度推進事業				
機関・団体:	都道府県	:	山形県	事業期間:	平成 28 年度 ~ 平成 年度
事業概要:	・黒堀のまちなみ保存活用協議会による「最上川が運んだ文化と黒堀の豪農屋敷群」の保存・活用活動について助成支援を行う。 …旧柏倉家住宅など				
事業③:	国・県指定文化財保存修理事業				
機関・団体:	都道府県	:	山形県	事業期間:	平成 28 年度 ~ 平成 年度
事業概要:	・慈恩寺本堂及び旧境内の保存修理工事 など				
事業④:	紅花振興拡大事業				
機関・団体:	都道府県	:	山形県	事業期間:	平成 30 年度 ~ 平成 32 年度
事業概要:	・県花「紅花」の振興拡大に向け、紅花加工品の生産振興を継続するとともに、観光誘客に結び付ける景観栽植の拡大、切り花の生産振興と需要開拓の取組を行う。 …観光地等と連携した紅花景観栽植のモデル実証、切り花需要開拓 など				
事業⑤:	紅花を核とした観光業との連携による地域振興				
機関・団体:	都道府県	:	山形県 (山形県紅花振興協議会)	事業期間:	平成 28 年度 ~ 平成 年度
事業概要:	・オール山形による紅花の生産・活用を核とした地域活性化を図るための取組を行う。 …国内唯一の紅花生産の農業システムを日本農業遺産へ登録申請、景観作物としての紅花栽植の推進、食品等への利用促進 など				
事業⑥:	国産花きイノベーション推進事業				
機関・団体:	国	:	農林水産省 (山形県花き生産連絡協議会)	事業期間:	平成 29 年度 ~ 平成 年度
事業概要:	・紅花をはじめ県産花きの需要拡大のため、花育教室や花の展示会の開催等の取組を行う。 …仙台市内での紅花観光キャンペーンの実施や県内外の観光施設等での紅花の展示 など				
事業⑦:	心が和む紅花のみち推進事業				
機関・団体:	都道府県	:	村山総合支庁	事業期間:	平成 21 年度 ~ 平成 年度
事業概要:	・紅花に縁の深い市町と県が連携し、県内外へ紅花の魅力を情報発信 ・仙台圏に向けた紅花キャンペーンの実施、朝摘み紅花の企画の構築				
事業⑧:	山形日和。花回廊キャンペーン				
機関・団体:	都道府県	:	山形県 (山形県観光 キャンペーン協議会)	事業期間:	平成 28 年度 ~ 平成 年度
事業概要:	・春の観光キャンペーンの中で、雛めぐりモデルコースを紹介するなど、各地の雛祭りを全国に情報発信				
事業⑨:	四寺廻廊パンフレット作成				
機関・団体:	関係団体	:	宮城・山形観光推進 協議会	事業期間:	平成 18 年度 ~ 平成 年度
事業概要:	・宮城県と連携し、立石寺、中尊寺、毛越寺、瑞巖寺 (四寺廻廊) にかかる観光パンフレットを作成				
事業⑩:	出羽名利三寺まいり				
機関・団体:	関係団体	:	出羽名利三寺まいり 協議会	事業期間:	平成 26 年度 ~ 平成 年度
事業概要:	・山形を代表する3つの寺院 (悪縁切り立石寺、若返りの慈恩寺、縁結びの若松寺) にストーリー性を付与し商品化した県内周遊の促進				

事業⑪：	紅花展示園設置事業			
機関・団体：	民間団体	：	高瀬紅花生産組合	事業期間：平成 元 年度 ～ 平成 年度
事業概要：	・紅花の展示園を設置し、開花時期までの栽培及び育成に係る管理等を行う。			
事業⑫：	ＩＣＴを活用した多言語ガイドマップ構築事業			
機関・団体：	市町村	：	山形市	事業期間：平成 29 年度 ～ 平成 30 年度
事業概要：	・山形を代表する観光地である山寺の観光ガイド機能充実のため、ＩＣＴを活用しスマートフォン・タブレットに対応した歴史ガイドマップアプリによる多言語案内システムを構築しインバウンドに対応した案内コンテンツを充実する。併せて、中国、韓国など中心にモニターツアーを実施、ロコミやSNSなどによる情報発信によりインバウンド誘客を推進する。			
事業⑬：	山形花笠まつり			
機関・団体：	民間団体	：	山形花笠まつり実行委員会	事業期間：昭和 40 年度 ～ 平成 年度
事業概要：	・「山形花笠まつり」を、毎年8月5日～7日に開催し、花笠踊りを通した国内外への山形市のPRを実施する。			
事業⑭：	山形紅花まつり			
機関・団体：	民間団体	：	山形紅花まつり実行委員会	事業期間：昭和 61 年度 ～ 平成 年度
事業概要：	・市内随一の紅花生産地である高瀬地区において、山形紅花まつりを実施し、山形市の花である紅花を広くPRし観光誘客を図る。			
事業⑮：	山形まるごと館紅の蔵運営事業			
機関・団体：	市町村	：	山形市 (山形市都市振興公社)	事業期間：平成 21 年度 ～ 平成 年度
事業概要：	・旧家の蔵座敷を活用した施設で、山形市の歴史と文化や特産品などについて情報発信し、PRを行っている。			
事業⑯：	日本一の芋煮会フェスティバル			
機関・団体：	民間団体	：	日本一の芋煮会フェスティバル協議会ほか	事業期間：平成 元 年度 ～ 平成 年度
事業概要：	・山形の「食文化・秋の芋煮会」を全国に発信するために「直径6mの大鍋」で芋煮をつくり、一大イベントとして開催している。			
事業⑰：	おくのほそ道天童紅花まつり			
機関・団体：	市町村	：	天童市 (天童紅花まつり実行委員会)	事業期間：昭和 63 年度 ～ 平成 年度
事業概要：	・上貫津紅花畑を会場に、毎年7月上旬に開催。畑では約7万本の紅花が咲き誇り、まつり会場では紅花染め体験や紅花リップクリーム作り体験などが催される。			
事業⑱：	天童雛飾り			
機関・団体：	市町村	：	天童市 (天童雛飾り実行委員会)	事業期間：平成 13 年度 ～ 平成 年度
事業概要：	・毎年2月～3月にかけて市内27の参加施設で開催。期間中は各施設が雛人形を展示、飲食店では限定メニュー、菓子店では雛菓子などが提供される。来場者に紅花の種をプレゼントしている。			
事業⑲：	天童夏まつり			
機関・団体：	市町村	：	天童市 (天童夏まつり実行委員会)	事業期間：平成 3 年度 ～ 平成 年度
事業概要：	・毎年8月8日・9日の2日間開催。将棋のまち天童ならではの花駒おどりパレードや花笠おどりパレード、神輿パレードなどが行われる。			
事業⑳：	紅花いっぱい運動			
機関・団体：	民間団体	：	紅花いっぱい運動実行委員会	事業期間：昭和 56 年度 ～ 平成 年度
事業概要：	・紅花の種の配布と生育した紅花の切花の展示・品評会を実施			
事業㉑：	紅花修景地植栽委託事業			
機関・団体：	市町村	：	河北町	事業期間：昭和 60 年度 ～ 平成 年度
事業概要：	・町内の農業者に委託し、紅花修景地の確保を図るもの。平成29年度からは、ハウスでの水耕栽培も実施し周年栽培に取り組む。			
事業㉒：	谷地ひなまつり			
機関・団体：	民間団体	：	谷地ひなまつり実行委員会 (主体：河北町観光協会)	事業期間：昭和 38 年度 ～ 平成 年度
事業概要：	・紅花商人は紅花交易で上方から雛人形を買い求めた。旧家には、古い雛人形が所蔵され、古くからひな市が開催された。その流れはひなまつりとして今も続く。例年4月2日・3日に開催され、雛人形は個人所蔵宅で特別公開される。			

事業⑳：	谷地どんがまつり			
機関・団体：	民間団体	谷地どんがまつり実行委員会（主体：河北町観光協会）	事業期間：	昭和 37 年度 ～ 平成 年度
事業概要：	・河北町の中心部に所在する谷地八幡宮の例大祭。谷地奴、囃子屋台、神輿還御などのほか、林家に伝わる舞楽が奉納される。			
事業㉑：	べに花まつり（紅花資料館）			
機関・団体：	民間団体	（一社）河北町観光協会	事業期間：	昭和 56 年度 ～ 平成 年度
事業概要：	・紅花が開花する7月初旬に実施。紅花摘みや紅花染め体験などを実施するほか、イベントを実施			
事業㉒：	紅花文化とおひなさま展（紅花資料館）			
機関・団体：	民間団体	（一社）河北町観光協会	事業期間：	平成 22 年度 ～ 平成 年度
事業概要：	・谷地ひなまつりの前段として1月上旬から4月上旬まで紅花資料館で実施。紅花文化と雛人形の関連性に着眼した企画展			